

*14号官舎（台長官舎）のカギ、他古い鍵の収蔵

昔々、国立天文台の前身の一つである東京天文台には三鷹キャンパスに43棟の官舎があった。といっても官舎もなかなか複雑で、1、3号官舎は高等官用であり、2、4～7号は判任官用官舎、8、9、10号官舎は雇員・傭人官舎と呼ばれ、2軒長屋であった。その他に合宿所という独身寮もあった。11、12、13号官舎はそれらの官舎からかなり遅く建てられた。そして14号官舎が台長官舎として2階建てで現在のコスモス会館の場所に建てられた。14号官舎は昭和20年（1945年）2月8日未明の本館の火災以後、昭和41年（1966年）5月までは台長室、事務長室、事務棟として使われた。明治憲法下では高等官（勅任官・奏任官）という偉い人がいたそうだが、東京天文台には高等官官舎が2軒建ったということは、高等官が2人いたのであろうか。判任官は高等官の下に位置する下級官吏であった。判任官は5人いたことになろうか。東京天文台の官舎で戦前までに建てられたのは14号までで、15～20号官舎は、昭和23年に三鷹国際報時所が東京天文台に移管された際、官舎も移管されたもので、国際報時所官舎も序列があり、17号になった官舎が所長官舎、20号になった官舎が用務員宿舎（用務員は任官しないから官舎ではない）と呼ばれていた。21～43号官舎は戦後の東京天文台復興、発展の拡張期の物資欠乏の頃建てられた官舎であった。



写真1 14号官舎のカギの一部

14号官舎は昭和41年からは合宿所として、そして東京天文台構内に東京大学の独身寮が出来てからは客員宿舎となった。そして客員宿舎としてコスモス会館が建設される時、取り壊されたのであるが、その際、取り壊されて不要になる玄関などのカギをもらい受け所

蔵していた御仁がいて、このたび、アーカイブをやっている筆者に台長官舎（14号官舎）の鍵（写真1）として届けてくれたのである。鍵はもっとたくさんあったがとりあえず3本を渡してくれた。この鍵束は革ひもで束ねられていることに驚いた。

筆者もものを捨てない性分で、本館（二）を使っていたものの一人として当時の鍵をいくつか所蔵（写真2）していた。本館（二）というのは、現在の南棟（総合情報棟）、まさに天文情報センターが入っている建物の場所にあったのである。



写真2 筆者が保管していたかぎ（左の2束）

写真2の木札がついた鍵の木札には「計算室」と書かれている（写真3）。



写真3 「計算室」と書かれた木札のついた鍵

今となっては、見たこともないような鍵である。昔の推理小説に出てくる鍵穴というのは、このような鍵が差し込まれるカギ穴であった。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp